

伊勢茶の米国輸出向け栽培における病害虫防除指針

利用対象：三重県内の米国輸出向け茶生産農家

米国の残留農薬基準（MRL）に対応した荒茶を生産するために、MRL を超過するリスクの低い農薬を選定し、一・二・秋番茶を輸出対象とした年間の防除体系を構築しました。

米国輸出向けかぶせ茶栽培（一番茶－二番茶－秋番茶の輸出）における年間防除体系のモデル

防除時期	対象病害虫（追加防除）	使用する農薬の例（薬剤の分類）	ポイント
3月下 一茶萌芽前	ハダニ類	スピロメシフェン水和剤（虫23）	各地の病害虫の発生状況に応じて防除体系を組む。
4月上 一茶生育期	ハダニ類	BPPS乳剤（虫12）	
5月中～下 二茶生育期	（ハマキガ類）	（追加防除を行う場合）BT剤（微生物） （夏期の防除の代替）トートリルア剤	フェロモントラップを利用して、ハマキガ類やホソガの適期防除。
6月上 二茶生育期	チャノホソガ、ハダニ類 チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメヨコバイ	ミルベメクチン乳剤（虫6） トルフェンピラド水和剤（虫21）	発生予察情報を活用したカイガラムシの適期防除。
7月中 二茶整枝後	輪斑病	アゾキシストロビン水和剤（菌11）	
7月下 三茶生育期	クワシロカイガラムシ チャノミドリヒメヨコバイ	フェンピロキシメート・ブプロフェジン水和剤 （虫21・虫16）	トートリルア剤を使用する場合、ハマキガ防除は不要。
8月上 三茶生育期	チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメヨコバイ	ピリフルキナゾン水和剤（虫9） ※秋番茶摘採40日以上前に散布	
8月上～中 三茶生育期	ハマキガ類ほか チョウ目害虫	クロラントラニプロール水和剤（虫28）	土着天敵に影響の少ない農薬を選ぶ。
8月中 秋茶生育期	炭そ病	銅水和剤（菌M1）	
8月下～9月中 秋茶生育期	チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメヨコバイ チャノホソガ	クロチアニジン水溶剤（虫4）	抵抗性対策として同一系統農薬の連用を避ける。
1～3月	（クワシロカイガラムシ）	ピリプロキシフェンマイクロカプセル剤（虫7）	

年間の農薬散布回数8回・農薬成分数11成分（必要に応じて追加防除）

2017年1月31日現在の情報に基づいたものであり、定期的に最新の情報を確認すること。

伊勢茶の米国輸出向け栽培における病害虫防除指針の構成

1. 米国輸出向け栽培において使用可能な農薬
2. 米国輸出向けかぶせ茶栽培における年間防除体系の例
3. 海外輸出向け防除体系を構築する際の注意事項
4. 被覆栽培が農薬成分の減衰に及ぼす影響
5. 化学合成農薬代替防除技術の導入 など



米国輸出に対応した伊勢茶商品（イメージ）

お問い合わせ先	三重県農業研究所 茶業研究室 田中千晴 電話 0595-82-3125
	中央農業改良普及センター 野村茂弘 電話 0598-42-6323
参考になる資料	三重農研HP : http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm